



FIGU - Landesgruppe JAPAN

フィグ・ランデスグルッペ・ヤープン

Internet: <http://www.jp.figu.org>

E-Mail: info@jp.figu.org

FLJ通信

第6号

発行：2015年11月1日

FLJからの諸連絡について

(1) ピラミッドの取次販売の開始

このたび、平和瞑想を行う際に必須となるピラミッド(ミニサイズ)の取次をFLJにて開始することになりました。私たちは、既にFIGUISUISから必要な許可を得て、いくつかの在庫を保有しております。取次をご希望される方はお気軽にお問い合わせください。今回、取次するピラミッドはFIGUISUISで販売されている「Reisepyramide(mini)」となります。これはピラミッド周囲の影響範囲において2名が同時に平和瞑想を行う事のできる1辺が約4cmのミニサイズの小さな旅行用携帯ピラミッドとなります。私たちは一つ23,000円(送料込み)にて配布いたします。

このピラミッドは、FIGUISUISのウェブショップからも誰でも注文が可能です。

FIGUISUISでは一つ150CHFで販売されていますが、日本からの注文の場合は本体の価格にプラス送料と手数料が生じます。また、私たちはピラミッドの自家製作の準備を着々と進めておりますが、もう少しの準備時間を頂く予定であります。

さらに、昨今の世界情勢における平和瞑想の重要性の高まりを考慮して、ピラミッド製作準備が整うまでの間の補完処置として取次を併用することとなりました。なお、私たちはFIGUISUISに関心を持つ誰もが、自らの自由意志によってFIGUISUISと直接の関わりを持つことを、とても重要な事だと考えています。従いまして、FIGUISUISのウェブショップから直接、販売物の購入を試みたいという方についてもお気軽にFLJにお問い合わせください。

日本からの申込みの方法や、国際送金の方法などについての説明等サポートさせて頂きたいと考えております。

(2) 平和瞑想補完CDの配布予定

平和瞑想とペントラ瞑想を補助するCDの配布を予定しています。このCDの為に私たちは、数年前から準備を行ってまいりましたが、ようやく完成を間近にしております。詳細は巻末の案内をご覧ください。

(3) 地域活動の起ち上げについて

新しくスタディグループ向けへの勉強資料の無料配布を始めました。もしもFLJとのコンタクトをお望みの勉強会・研究会がありましたらご連絡を頂ければと存じます。

引き続き勉強会・研究会の設立に向けたサポートを継続させていただいております。読者様の生活圏における志を同じくする研究者・学習者の勉強会はFIGUISUIS活動の根幹を成すものとなっており、私たちも積極的なサポートを実施していく予定ですので、お気軽にお問い合わせください。

(4) 読者登録のご案内について

FLJ通信を一日でも早く、入手をご希望の方は、読者登録をご検討ください。

読者登録はWebサイトの登録ページを始めインフォメールにて受付しておりますが、その他FAXや電話、又は葉書などを八王子ハウスまでお送り頂いても可能です。

以上

編 集 手 記

今年は、年間の活動計画の一つとしてFLJ通信の充実を行うというものがありません。

その結果は、普段よりも記事量の多いFLJ通信が皆様のお手元にお届けになったことにより既に存じのことと思います。

このペースは、私たちの翻訳チェックや校正作業への時間配分、また人的リソースなどの面からややオーバーワークとなりました。これはFIGUISUISから発信される広報記事などの情報量が昨今、急増加してい

ることに対応した計画でした。

公報の記事の内容については、主にヨーロッパの内情に関するものですが、FIGUISUISに関心を持たれる、感の良い読者の皆様ならば、それらの問題を、日本の国内でも生じている様々な問題との相関として結びつけられ、また、私たちの世界の今後に対する必要な警戒を生じさせたのではないかと存じます。

今後とも、時事の変化に対して正確な記事を迅速に皆様にお届けするために、私たちは支援者と共に頑張っていきたいと考

えています。

また、新しく取次業務やCD配布予定などをご連絡いたしました。私たちはFLJの活動成果を皆様にお伝えできることをとても嬉しく思います。メンバーは、毎日のわずかな時間をFIGUISUIS活動に割り当てながら、少しずつ担当の仕事を進めています。一つの活動にはその計画から準備、そして完成までに何年も掛かるものもあり、暖めてきた成果を皆さんに公表できるということは、担当したメンバーにとってこの上ない喜び

となっています。

また、今はお伝えすることがまだできない幾つかの活動も水面下で進んでおり、皆様にその成果をお伝えできる日を待ち望んでおります。

読者の皆様の暖かい志にも励まされ、支援も受けながら、日々順調にFLJの運営が進んでおりますのでご安心ください。

小林 裕昌

FIGU特別公報86号-2からの抜粋(読者の質問)

FIGU-Sonder-Bulletin Nr.86/2_{P16-P18}[Question-Michael Horn, USA / Frage-Billy:]

質問:

私は、ウィルバート・B. スミス[:Wilbert B. Smith]の小冊子『新しい科学』を読みました。あなたは、彼はコンタクティブだと言ったことがあります。彼はプレヤール人とのコンタクティブだったのでしょ

というのも彼は本の中でアランとかいう人物について語っているからですが、あなたの情報によればアランは嘘つきだとのこと。彼が1962年に死去したために完成されなかった小冊子で、実在の12の組織について語っているものはありますか？ その中に真実を見出すことは出来るでしょうか？

[クリスチャン・フレナーの注：この質問はセムヤーゼから渡された、真のコンタクティーのリストに関するものである。『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録』第6巻〔原書〕264pの文238~248参照。]

マイケル・ホーン、USA

回答：

ウィルバート・B. スミスについては明らかに誤解が生まれた。彼のコンタクトも1970/80年代に言われていたのとは全く異なる性質のものだった。当時、誤りが生じたのは、コンタクティーと呼ばれていた地球の人間について、プレヤール人が解明しようとした際に非常に遺憾な誤りが忍び込んでしまったからだ。その誤りは地球外の「アシュタール・シェラン」グループの催眠的な暗示操作に由来するものだった。このグループはダル宇宙で戦争行為により全宇宙船団と共に完全に排除された。しかしながら、これまで既にコンタクティーと呼ばれた者に関する事情は、以下に転載する2013年6月1日のプターとの第562回公式コンタクト記録によって明らかになる。

ウィルバート・B. スミスとかいう男はたしかにコンタクティーだったが、残念ながらネガティブな種類に属していた。彼のコンタクトは一回限りのもので、絶対に無意味であり、そのうえ「アシュタール・シェラン」のグループとの催眠術による直接コンタクトに過ぎなかった。

述べたように、その全ては実際には取るに足らないものだった。

我々が催眠術による直接コンタクトと呼んでいるものは、催眠状態が機器によって自動的に引き起

こされるのではなく、直接人間によってなされるものをいう。しかしながら長距離に及ぶ催眠状態に引き入れる思考のエネルギー伝達はやはり強力な送信機によって行われる。だからスミスは他の多くのコンタクティーと同様、コンタクト時に催眠後もその様相を伴う催眠状態にあった。そして彼は自分が何をしたか意識することなく、つまり自分の意志によらず行動した。それはコンタクティーを絶対的にコントロールできるようにするための「アシュタール・シェラン」グループの常とう手段であった。そしてこれは「アシュタール・シェラン」グループによって悪用された数多くのコンタクティーにあっても全てそうだった。

地球人との、そのようなコンタクトは「アシュタール・シェラン」グループによって非常に頻繁に行われたが、その際、このグループは地球人を自分達の地球上での暗い策謀の従順な道具にするために、単にインパルスによって干渉した。

これらの影響を受けた者達の数は多いが、当時、これらの人間の内、コンタクトが実際にどのようなものであり、どのように行われたか誰一人分からなかった。

事実、現実の直接的コンタクトを持った者は一人もおらず、常に催眠術のインパルスによるものでしかなかったが、その全体はリアルな幻覚に属していた。そのため「アシュタール・シェラン」グループによって悪用操作された多くの

コンタクティーは、自分達が地球外生命体と現実のもしくは本当のコンタクトを持ったと確信している。だから彼らはこの意味で自分達が地球外生命体と本当に出会ったのではないこと、したがってまた地球外生命体の飛行装置と一緒に乗ったことも無かったことは意識しなかった。なぜなら本当は、彼らは催眠術によるリアルな幻覚により全てを信じ込まされたからである。この催眠術を使ったリアルな幻覚のまやかしによりコンタクティーは惑わされて、彼らの中に植え込まれた空想により自分達は実際に地球外生命体と本当のコンタクトを持ち、彼らの飛行装置に乗ったと信じたのである。だから彼らは現実を催眠術による幻影と区別することが出来なくなり、自分達のコンタクトは本当に現実に起こったのだという、植え込まれた空想の中に生き、そして未だに生きているのである。

もう一つ別の事実は、これらのコンタクティーは催眠術の暗示によって「アシュタール・シェラン」グループの起源について誤ったデータを埋め込まれ、そのために実際にこれら全てのコンタクティーには、極めて多様な起源地が記憶に埋め込まれたのである。

だがこれらの事実は、我々が君にコンタクティーのリストを挙げた当時は知られていなかった。なぜなら我々はその当時は当該者[註文]の記憶だけを分析したからである。しかしながら、それらの記

憶は催眠術の暗示によって根底から操作されていたので我々は騙され、記憶[記憶]が操作されたことを認識できなかった。我々が本当の事実を知るに至ったのは、つい3週間前のことであった。今、我々が使用できる更に優れた技術的手段を今回、初めて使用した。

近年、様々なその種のコンタクティに奇妙に見えることが目に付いたため、我々は新しい機器や装置を使ってまだ生きている全てのコンタクティの記憶インパルス^{インパルス}を再分析し、催眠術による、それらのブロックを突破することが出来る。こうして今や我々は本当の現実と真実に出会ったのである。

それらの評価は昨日まで続けられ、したがって本日、私は我々の努力と分析の結果も述べる事が出来た。だがこれについて指摘すべきは、先に述べたような方法でコンタクトを強制された人達には、自分自身で意識した知識が残っておらず、催眠後の記憶だけが残り、それは操作直後から強くなってもはや元に戻せなくなったことである。この事は例外なく、我々が個々に名前を挙げたか、リストにコンタクト人物として名前を記した多くの地球人、全員に当てはまる。彼らは例外なく強制的に「アシュタール・シェラン」グループにより催眠術の暗示とリアルな幻覚によって操作されたのである。

しかしながら全員、インパルスはどんな場合においても、インパルスを受け取った者はそれに応じた影響によって誤ったビジョンを持ち、コンタクトを体験したと思いつい込むようになった。それゆえ彼らはそれについて記録を取ったり、本を書いたり一部は公衆の前に登場したりした。その理由は、それ

により様々な地球外生命体の存在と起源について、偽りの情報を世界中で生じさせる一方で、地球上に支配者として住み、そこで新しい故郷を見いだすという「アシュタール・シェラン」グループの計画とも結び付いていた。その計画というのは、このグループは地球の住民が困った時に、地球を脅かすと称されるさまざまな邪悪な地球外の侵入者に対抗し、いわば救助者として登場するというものであった。このために全てを現実のように見せようと、空中戦や地球周回軌道での戦いなど大掛かりな見世物が計画された。そして最終的に「アシュタール・シェラン」グループが、いわば地球外防衛艦隊として地球を支配することになっていた。これら全てのことは催眠術を用いた地球人とのコンタクトによって目論まれ、そして地球の各国政府と公式コンタクトが取られた後にその全てが完成する予定であった。

これは、まさしく実際に特定の地球人にインパルスによって影響を与えることにより成功するはずであった。それらの地球人には最終的には全ての国の権力者も含まれ、彼らはインプットされたインパルスに従い計画が実現するように行動する手筈であった。しかしこれらの人物達は、それはかなりの数だったが、まだ、我々に分かっている理由で皆一緒に拒絶し、自分達に与えられた任務を果たさなかったため、その邪悪な計画は頓挫した。

だから以前、我々も名前を挙げた、それらの全てのコンタクティは、「アシュタール・シェラン」グループの計画を実現するためのパイオニアとしての役割を演じる予

定だった。そして全てのこれらの地球人達は、まさに先程述べたように地球外の「アシュタール・シェラン」グループにより催眠的な暗示で操作されていたが、我々は当時それを知らなかったため、本当のコンタクト人物として名前を挙げたのだった。

それは我々が惑わされたことによる誤りであったが、そのために君にも、また君を通して地球人の間にも、これらのコンタクト人物は「アシュタール・シェラン」グループと本当の身体的コンタクトか、あるいは何らかの地球外生命体と、テレパシーによるコンタクトを持っていたというような誤った推測が生じる結果になった。もちろんこれが当たっていないことは今日では分かっているが、既に当時も奇妙に思われていた。というのも我々に未知の三グループ【:プター達が存在するが、コンタクト要件に合致していないために、接触も、この当時は調査も行っていない地球を訪れている他の3つの種族】以外は、知らなかったからである。

そこで我々は、これらのコンタクト人物達は、我々の知らない三グループとコンタクトしていると推測したのだ。したがって、この誤解は我々の原因に帰するが、その事を非常に遺憾に思っている。

ついでに言うと、この強制された操作コンタクトの形態は、我々のインパルスコンタクトとは無縁の代物だった。我々は地球人とインパルスコンタクトを行ってきたが、地球人はその事を意識しておらず、彼らの先進的なアイデアは自分達自身のものだと思いつい込んだ。

特にこのインパルスコンタクトは、地球人の間で科学や医学や技術を促進するために我々の側から科学者に対して行われたが、それが過去数十年間に数多くの発明や改良など非常に急速な発展によっ

て、実際に起こった事は明白である。我々のコンタクトも、我々のインパルスメッセージの受信者は意識されないテレパシーによる情報インパルスの全体について全く知らないという性質のものであった。

君も知ってのとおり、最終的に

ダル宇宙で果てた「アシュタール・シェラン」グループにより地球上で災いが実現する予定だったが、もし強制コンタクトされた地球人を使った彼らの操作による策謀が成功していたら、それは現実のものとなっただろう。

さてウィルバート・B. スミスが

使用したアランという名前だが、これも彼の全ての表明と同じく空想の産物に過ぎない。アランという名前については、彼[アラン]は嘘つきだと言ったのではなく、その名前[アラン]の意味が「嘘つき」を意味すると言ったのだ。

ビリー

質問：

多くのネガティブな権力者達が物質的に快適な生活を送る一方で、意識に関する進化に合わせている多くのポジティブな志向の人々が、往々にしてより苛酷な生活を送っていることは不当に思えるのはなぜでしょうか？

マイケル・ホーン、USA

回答：

多くの権力者達が物質的に快適な生活を送ることが出来る一方、ポジティブな志向を持ち意識に関する進化に心がける多くの他の人々がより苛酷な生活を送っているのは不当に思えるだけではなく、実際に不当である。

事実は、権力者達はたいがい良心がなく、いわば目的のために手段を選ばないということである。

それというのも彼らはただ物質主義、快適、利己心、欲望、尊大、貪欲と強欲、そして権力欲を志向しているからである。

これらの人間は、創造・自然の法則と勧告も、人間や動植物の幸福も気にかけない。権力者達がそうすることができ、また自分達が望む通りにさせることが出来るのは、これに関する社会システムが

全てを不当に許しているからであり、それどころかこの不当が支配できるように何でもするからである。これは例えばあらゆる類いの権力者達を選出して黙認することによって起こる。つまり人間は、あらゆる傾向の不当で不誠実な権力者達が、支配し物質的に快適な生活を送ることが出来る一方で、誠実な人間が欠乏に悩み、困窮と悲惨に明け暮れ、非常に苛酷な生活を送らなければならないことに、自ら寄与しているのだ。

しかし、また言うておかなければならないのは、物質的に快適な生活を送っている少なからぬ者が、厳しい労働によって誠実にそれを獲得したこと、そして彼らも意識に関わる進化について、人間や動植物の幸福についても努めているということである。だから単純に全ての権力者達をネガティブな

プールに投げ入れることは出来ない[困難な事]。なぜなら彼らの中にも真に人間的で、意識の進化を果たし、同胞にとっても、国民にとっても、さらには全地球人類にとっても偉大で最良の人間もおり、その最高のものをもたらすからである。

権力者であれ一般市民であれ人間については、どんな場合でも常に誠実な人間と不誠実な人間を区別しなければならない。なぜなら人間の本質、振る舞い、行動、身振り、言葉、態度に関して正確に知覚することによってのみ明確な判定を下し、不当な偏見を避けることが出来るからである。

ビリー

質問：

人々に霊の教えやビリーのコンタクトなどを、不安がらせたり、馬鹿げたことだと思わせたりしないように理解させるにはどうするのが一番ですか？

マイケル・ホーン、USA

回答：

霊の教えを人間に理解させるのは、当の本人に関心があり聞かれた場合にのみ限るべきである。そ

れ故、布教活動を行ってはならない。霊の教えは、人間がそれについて直接または間接に質問した場合にのみ理解させるべきものであ

る。その場合には必要な情報を事実に基づいて、押し付けがましくなく、熱狂的にならず、また尊大で狂信的な形で与えてはならず、

また、全ての必要なことを理性的に説明しなければならない。対話と啓蒙においては忍耐、平静、客観性、愛そして尊厳によって平和と信頼の雰囲気生まれ、したがって怯えた状態や混乱、おかしくなることも生じない。

霊の教えとその研究

細部に至るまで十分に形成された、「霊の教え」の学習教程は、「真実の教え・霊の教え・生命の教え」に基づいて構成されたものである。

この教程は365の通常通信教材と46の特別通信教材を含み、合計するとA4版で六千二百ページになる。F I G U 受動会員[Passivmitglied]として「霊の教え」の研究をする者は誰でも研究者になることが出来る。

研究者は4ヶ月ごとにA4版で約50～60p程度の冊子を郵便で受け取る。この冊子はそれぞれ4つの通信教材を含んでいるため、毎月一つの通信教材を研究することになる。通信教材は全てドイツ語のみで書かれている。通信教材には進化のコード^{注1}が織り込まれて

おり、その働きによって教えを研究する人間はこれと理性的に取り組み、自己の内的経験をとおして現実とその真実を認識し体験するように努める。また、そのコードによって惑星の個人的なメモリー層から知識と知恵のインパルスが呼び出され、研究する人間の中で効力を発揮する。したがって研究者は霊の教えに織り込まれたコードによって大いに得をする。

広範な効用をもたらす霊の教えを研究するには、ドイツ語の知識が不可欠である。たとえドイツ語を理解していなくても本文[本文]を読めばコードは効力を発揮するが、研究が真に効用をもたらすことが出来るのは、全ての研究内容が理解され、かつ追体験[追体験]される場合のみである。研究全体(および、他の全てのF I G U 刊行物)は、創造・自然の法則と勧告および思考と感情の自由、自主独立、愛、平和、調和、人間の実際の知識と知恵の原理に基づいている。霊の教えは宗教や教派の信仰とは全く関係ない。したがって神格、偶像、天使、悪霊、悪魔、聖人などが、しかしまた超越者、指導者、グル、

師または福者[福者]なども何らかの形で登場することもない。霊の教えの通信教材は、人間と宇宙の生命のあらゆる分野、および全ての存在の詳細な分析を含んでいる。

それらが強調するのは、個々の人間の自己裁量と自由と責任に基づく生活実践[実践]である。また、通信教材は「瞑想入門」、「アラハト・アテルサータ」、「心」、「OM」、「真実の杯」、「創世記」などの若干の書籍からの抜粋も含んでいる。

注1) このコードは文章の初めから終わりまで一語一語があるべき位置に誤りなく記されている場合のみ完全な効力を発する。コードはメモリーバンク領域よりインパルスを発し、それが読む者を捉え、その中で作用し始める。この過程は無意識の内に進み、強制や操作とは無縁である。この過程は、メモリー層内に永久に保存されており、相応のインパルスによって誘起されると非常にゆっくりと、再び意識に浸透し始める知識とだけ結び付いている。[インパルスは、争ぼうとする知識に結び付いており、あなたの意識にゆっくりと浸透する。]

この効果はドイツ語が出来ない人が、ドイツ語のテキストを読んだ場合にも発揮される。その際に、テキストを小声または大声で読もうと、黙読しよう構わない。

ビリー

質問：

他人が私に、自分達の意志、あるいは信仰や理想像、または知覚を押し付けようとする時、そうした外的影響に対してどのように解決を見いだしたら良いでしょうか？

人間で在ることと、その真実に関して、誤った知見に満ちた世界で実際にどのように生きたら良いでしょうか？

マイケル・ホーン、USA

回答：

外的影響に対して防御し、人間で在ることに関して、誤った知見に満ちた世界で生きるためには、現実と、そこから現れ出る実際の真実を認識・理解し、受け入れる

ことが前提となる。

そして、例えば他の人間が、ある人に自分の意志あるいは自分の信仰や理想像や知覚を押し付けようとしたなら、それに対して意識的な防御だけ[物理的な防御]の可能性があるのである。意識的な防御の本質は、健

全で明晰^{めいせき}で理性的な思考と感情、および明晰^{めいせき}で確固として健全に自分自身を意識している事(これは自己意識と類似している)にある、そして自己保存本能、自信、悟性、理性、並びに自分の自己価値を自分自身で意識することにある。こ

れら全ての価値は、現実とそこから現れ出る真実に関する知識と結び付いており、この真実に対して力強く覆くつがえすことが出来ないように固く保持されている。

そして自信に基づいている自分自身を健全に意識していることの価値は（この事は自分の自我と、その性質に関して「知ること」である自己知覚と自信に基づいているが）、自己尊重、および不変性とも結び付いており、これらを捨て去ることは許されず、自分の意見と自分の知識も主張されねばならない。したがって、強制や圧力を伴ういかなる外的な影響も拒否しなければならない。それゆえ、自分自身に他人の意志が、そして信仰、または理想像、さらに他の知覚などが押し付けられることは出来ない。全体において、常に現実とその真実に関する自分の知覚の現実的なものだけを見て、これを理解し、全てに力強さと論理と率直さを有効に働かせて意見を表明しなければならない。このように

してのみ強制的または暗示的に他の意志、信仰、理想像、または他の見解や意見や知覚などを、自分に対して自身のものにすることが避けられるのである。健全に自分自身を意識することは、自分の自我が、常に利己心を無くして最前面に表れ、まさに自分の自我とその性質、そして知識と知恵と能力[知能]について、自己知覚と自己評価を行うことを保証するが、全体としてその事は、また外に向かつて主張されなければならない。

健全に自分自身を意識することは意識的なエネルギーと力[力]であり、これに基づいて自己の本質とその姿勢[姿勢]と行動様式が肯定されるのである。

そして真の意味において健全に自分自身を意識する在り方が、外的な影響に対してき然としていることを保証するのである。

それ[健全に自分自身を]はまた、浸透して「ひとつ[身」にまとめる力でもある、その力[Kraft]が（自己意識と共に）自己の在り方を規定し

ている。このようにして他の意志、信仰、考え、他の意見や知覚などを押し付けようとする非論理的な外部の他の影響から自分を守るのである。人間にとって「健全に自分自身を意識すること」は、その論理的な帰結と効果[見果]において、人間が自分自身を発見し、自分自身に関して現実とその真実[聖なる中]と向き合ったことを意味する。健全に自分自身を意識することが論理的で真実をはらんでいるならば、その結果において、それは完全に自分で存り続けることに方向付けられているのだ。したがって他人のものが自分のものに転化することは起こり得ない。なぜなら論理的で真実であること、そのものが人間の真の性質だからである。

ビリー

F I G U 特別公報 9 0 号からの抜粋（読者の質問）

FIGU-Sonder-Bulletin Nr.90_{p21-p23} [Leserfragen/Antwort]

Und dazu auch noch ein Auszug aus dem 618. offiziellen Kontaktgespräch von 21. März 2015

Auszug aus dem 619. offiziellen Kontaktgespräch von 2. April 2015

読者からの質問

世界中の政府の中で、戦争やテロで、あらゆる国民を不快と不和に陥おとしれているサイコパスのパーセンテージは全体でどの位と推定されますか？ また全国民の中でサイコパスが占めるパーセンテージはおおよその程度と予想すべきでしょうか？

U. ヘルゲート、ドイツ

2014年5月26日にツァイト・オンライン[ZEIT ONLINE]で行われた心理学者イエンス・ホフマンのインタビューによれば、目立って多くのサイコパスが最高経営陣に入り込んでいます。最近の調査の結果では、自己愛性人格障害またはサイコパス的な人格を持った人間で権力のある地位にいるのは人口平均より3倍ないし4倍多くなっています。およそ1%~2%はサイコパスであると想定される。指導的地位におけるそれらの割合は約6%です。

(出典：<http://www.zeit.de/karriere/beruf/2014-05/psychopathen-interview-psychologe-jens-hoffmann>)

・これに関する私の質問は、次の通りです。

1. あなたもしくはプレイヤー人は、世界中で政治、経済および社会のその他の分野で、指導層に占めるサイコパスの割合はどの位か知っていますか？（私の意見では言われている6%よりかなり高いと見られます。）
2. この事実は人類の禍福にどのように影響しますか？
3. サイコパスが、権力のある地位でますます広がっていることに対して何ができますか？

アキム・ヴォルフ、ドイツ

回答：

プレイヤー人の情報（さまざまな個人的会話と2015年3月21日の第618回公式コンタクト）によると、インタビュー[ZenOnline]で言っている主張は、プレイヤー人の調査と一致していない。それも大きくかけ離れている。

プレイヤー人の説明によると、現代の地球の心理学者や精神科医は、実際に全てのサイコパスを認識することはできない。その上、サイコパスはナルシストであるという。何故なら、ナルシズムは一般的にはサイコパスを伴うからである。地球の心理学・精神医学はまだ極めて不完全であり、したがって心理学者や精神科医は全てのサイコパスのごく一部しか認識して正しく判定できない。そのため全てのサイコパスの大部分は認識されないが、それは地球の心理学者や精神科医がサイコパスに欺かれて精神病質的な特質を認識できないからだという。これは、サイコパスがいれば完璧な役者であり、どんな心理学者や精神科医でもたやすく欺けることとも関連している。

プレイヤー人が2012年に行った調査によれば、世界中で政府、経済および高位の政務職の指導的地位にある者の約72~78%が精神病質を持っているという。したがって平均すると指導や権力を使用する全ての人間の約4分の3がサ

イコパスだということになる。

だがそれらの者のほとんどは完璧な演技力によって、彼らの精神病質・自己愛性[ニル]な特質を周囲に対して、さらにまた心理学者や精神科医などのいわゆる専門家に対しても偽装し、隠蔽し、覆い隠すことができるのだ。その結果として政府や経済界の指導と権力の座および政務職に約72~78%いる中の一部分しか、すなわち実際のサイコパス・ナルシストの約22~25%しか認識されない。とりわけこのパーセンテージのサイコパス・ナルシストはどんな状況にあっても、常に尊大にもその指導と権力を公然と発揮する気である。

地球人口の約24~27%のサイコパス・ナルシストにおいても、もちろんより低いパーセンテージしかそのようなものとして認識されない。何故ならこの場合も彼らの演技力が多くを覆い隠して精神病質をあからさまに認識させないからであり、したがってサイコパスのわずか約50%しかそのようなものとして認識されないのだ。

2015年3月21日の第618回公式コンタクト記録からの抜粋を付け加える

ビリー： …ここに一つ質問がある。その質問は私も興味があるので一度、個人的な会話で取り上げたことがある。

それは政府、政務官職および住

民[ニル]の中にどれだけ多くのサイコパスがいるか、ということだった。

今また、ドイツ在住の一人の男が質問してきた。彼はサイコパスとナルシストについて何かを読んで、そのような人間、すなわちサイコパスやナルシストが地球の政府と地球人口にどの位の割合でいるのか、もしくはそれぞれ何%と見積もれるのかについて関心を持っているようだ。

プター： サイコパスは一般的には自己愛的でもある。というのもナルシズムは常にサイコパスと結び付いているからである。このことが地球の心理学者や精神科医が、これを認知し、あるいはおよそ確認することさえも困難にしている。

しかし地球の政府と地球の住民の中にいるサイコパス、したがってまたナルシストの数に関する情報を与えることはできない。何故ならこれに関する数値は死亡と誕生によって絶えず変わるからだ。

その上、私はデータを記憶していないので、呼び出さなければならぬ……そう、これだ…これに関して我々が最後に調査したのは既に4年前のことで、その時は地球の権力者、政府および行政などの全ての公職分野におけるサイコパス・ナルシストに関する値は、平均約72~78%の間で推移している。これは地球上の全政府の権力者、公人および行政人などの総

数に基づいて計算したものである。

地球の総人口におけるサイコパス・ナルシストに関しては、我々の調査では平均14～17%という値が出た。

ビリー： それは途方もない値だ。そうであるならば地球の全ての国民が頭のおかしな者達と狂人によって統治され、そのため絶えず暴動や革命、テロ行為や戦争が引き起こされるのも驚くには当たらない。

そしてまた、EU独裁とアメリカ合衆国の権力者達がロシアに制裁などを課し、悪意のある要求で挑発し苦しめることにより、新たな大戦争を引き起こそうと躍起になっているのも不思議ではない。

そこにおいて特にドイツ連邦共和国首相アンゲラ・メルケルはムカつくような役割を演じているが、それは一方では、自分自身の卑しい動機からであるが、他方では彼女は自発的に歓迎すべき操り人形としてアメリカ合衆国から悪用されているからでもある。

事実、既に再び「熱い戦争」は目前に迫っており、それは非常に早く世界大戦に変質するだろう。

何故ならEU独裁だけでなく、アメリカ合衆国もロシアに対して陰険に動き回っているからだ。ひとえにEU独裁とアメリカ合衆国とNATOにとっての莫大な利益のみを狙った制裁と要求でロシアを悩ませる代わりに、ロシアの政策に対して実際もっと理解を示すべきであろう。ロシアを悩ませていることに関しては至るところで常にドイツが憎まれ役として登場するが、本当はドイツもしくはドイツ国民ではなく、最前線にいるのはメルケル首相とその同類の仲間であり、

しかもEU独裁とアメリカ合衆国の全ての権力者と協力しているのだ。

本当は、ドイツで発言権を持っているのはドイツ国民ではなく、連邦首相メルケルと彼女の取り巻き、およびEU独裁とアメリカ合衆国である。これらの大国はことごとくロシアの状況に理解を持たないが、まさにこのことが問題の核心である。というのは西側全体が、中でもまさしくEU独裁とアメリカ合衆国とアンゲラ・メルケルがそれらのロシア政策を急いで変えなければならぬからである。

さもないとウクライナ紛争が「熱い戦争」となり、それが新たな世界大戦につながることは避けられない。それは第4次世界大戦である。というのは既に3度の世界大戦があったからだが、1756年から1763年にかけて起きた最初の世界大戦は秘密にされ、間違っていると知りながらただの七年戦争と呼ばれている。

プーチンの関心について言及するならば、彼の全努力は、政治ニュースでも広められているように、中国、パキスタンおよび中央アジア地域の旧ソビエト連邦共和国に向けられていると思う。ウクライナにはあまり強い関心は無いだろう。私の見るところ彼の関心はクリミアと東ウクライナだけに限られているからだが、それはこれらの地域にはロシア語を話す住民やロシアの子孫が多く住んでいるからである。だがEU独裁とアメリカ合衆国がロシアに対して動いていること、すなわち東方への拡張に務め、ロシアに対抗してミサイル迎撃やその他の防壁を築き、しかも全ては単にイランからの可能な攻撃（特に核攻撃）に備えるものであると嘘を言っているのは、

一方では実のところ臆病な不安に他ならず、他方ではとりわけアメリカ合衆国によって押し進められている勢力拡大の陰謀である。何故ならこの国が追求しているのは世界の警察および世界の支配者としての役割以外の何ものでもないからだ。

つまり、EU独裁がその爪をヨーロッパの先まで伸ばす一方で、アメリカ合衆国の政策に取り入ろうとし、アメリカの政策もまたEU独裁政策に取り入ろうとしているのだ。その中でドイツは現実の独自の政治方針を見い出せないでいる。

しかしこのような政治方針はメルケル首相と彼女を支持する取り巻きがいては見い出すことができない。何故ならそれらが政権を握り、アメリカ合衆国がドイツ政府を操ろうとする限り、何も良くなりようがなく、その反対に悪くなる一方だからだ。そして実際にその通りであるから、今日、少なくともヨーロッパ全体に戦火が及ぶという非常に大きな危険が、これまで久しく無かったほど目前に迫っている。たとえそれが、また別の時に全世界を巻き込む戦争ではないにしても、EU独裁、ドイツおよびアメリカ合衆国の全ての統治者はこの危険を意識していないことは全く明らかで、類似例が以前にも起こり、それがどのように1914年および1939年に悪質な世界大戦につながったかを見ない。今日、昔の出来事が恐ろしいほど繰り返されており、これらの繰り返しを早急に止めて、理性に席を譲らなければ、もはや破局は避けられない。

ブター： 残念ながらそれは実際に真実に合致している。

2015年4月2日の第619回公式
 コンタクト記録からの抜粋

プター: 君の論述は、その限りでは合っている…

ビリー: …では繰り返そう。政府、私営経済と国家経済および政官職においてサイコパス・ナルシストの割合は72~78%に達するが、そのうち明確に認識できるのは22~25%である。つまり政府、政官

職、私営経済と国家経済における全指導層の約4分の3に当たる72~78%は精神病質的・自己愛的な人間であるが、全指導層を100%とすると、その4分の3のうち約3分の1、もしくは22~25%が明確にはっきり実際のサイコパス・ナルシストと認識できる。

さらに地球人口100%のうち24~27%もしくは約4分の1が精神病質的・自己愛的な特質を持っており、その内また約57%もしくは約半分、すなわち約12~15%

は明確に認識できるサイコパス・ナルシストである。

プター: それは正しく、そして私が説明したことを別の言葉で言い換えたものだ。

ビリー

FIGU特別公報91号からの抜粋（読者の質問）

FIGU-Sonder-Bulletin Nr.91_{rP1-P3} [Leserfrage] & Auszug aus dem 618. offiziellen Kontaktgespräch vom 21. März 2015

読者の質問

親愛なるビリー

私はずいぶん前から「予言者」の概念に頭を悩ませています。私の経験ではこの表現は宗教的・否定的なニュアンスがあり、今日では、いささかこっけいか、少なくとも怪しげなものという印象を与えます。

そのため私はこの概念を使うのを、つい躊躇^{ためら}ってしまいます。多くの人はこの言葉を聞くとすぐセクト主義か何か胡散^{うさん}くさいものと結びつけます。もちろん私はこの言葉がギリシャ語に由来し、本来は「prop^hètes（私は言う）」から派生し、「代弁者」、「使者」または「予告者」あるいは単に「告知者」を意味することを知っています。にもかかわらずこの表現は（慎重に言い回しをすると）やや時代遅れの感があり、多くの人間が教示や予告にこれまで以上に敏感に反応する現代においては、もはや相応しくないように思えます。

私の懸念が晴れるように啓発的な説明をしてくれませんか？ これについて考える材料を与えてもらえたら非常にありがたいです。

ベルナデッテ・ブラント、スイス

回答:

この読者の質問は、別の人々からの問い合わせと関係しており、その全体は私自身も子供の頃から取り組んできたので、2015年3月21日に行ったプターとの第618回公式コンタクトの際に、これに関する「改めての質問」を話し合い、私は自分の意見を述べ、プターも彼の視点からの見解を表明した。

そこで質問の回答としてコンタクト記録の抜粋が妥当であろう。

2015年3月21日の第618回
 公式コンタクト記録からの抜粋

ビリー: まさしく、私も同意見だ。さて、次に取り上げたいのはかねてより私の気に掛かっていること、すなわち「予言者」の概念だ。それは私にも付きまとっているが、私はそのことを少しも嬉しい

とは思っていない。私が予言をしたら、私はそれを単に「告知」したか、あるいはまさに「予言」したわけであり、したがって人は私のことを「告知者」または「予言をする者」と呼ぶことができるだろう。そして私がいまミッションを遂行して「真実の教え・精神の教え・生命の教え」をもたらすならば、私のことを「ミッションを遂行する者」あるいは簡素に「教師」と呼ぶことができる。

この呼び方は私も気に入っているが、予言者はおよそ気に入らない。「予言者」の概念は残念ながら既に太古のものであり、昔の予言の告知者がまさにそのように呼ばれたことによっている。だが、それは告知者の活動の真の理由であったところのもの、すなわち霊の教えもしくは「真実の教え・霊の教え・生命の教え」を教えることに基づくものではない。つまり予言を告げる者は基本的に教えをもたらす者であり、したがって教師だったのだ。私も自分をそのような者と見なしており、予言者とは見なしていない。

私はあまり予言をしたことがなく、今日でもほとんどしない。ここで注意を要するのは、予言は一般的に確率計算と夢とビジョンに基づいているという点だ。予言は実現することもあれば実現しないこともあるが、それは原因をどのように扱い、そこから対応する結果がどのように生じるかによって異なる。したがって予言は変更されることもありうる。これとは正反対なのが予告[Vorausage]である。

予告は、私も何度もしたことがあり、それは疑いなくどんな場合も実現する。それ故これにしたがって私を予言者に代えて呼ぼうとするなら、「予告する者」が相応しいだろう。これや「教師」とは反対に「予言者」という呼び方は、何か胡散臭く宗教的、教派的なものを含んでいる。それは私がこの呼び方を拒む理由でもある。

これについて私はエファヤやベルナデッテとも話したことがあるが、二人とも「予言者」は実際に宗教的・教派的な色合いが非常に強いので私に対しては単に「教師」という呼び方を用いるべきだという意見

だったが、私も同じ見解である。

プター: 君が言うことは理解できる。君が「予言者」の概念は宗教的・教派的に解釈されるべきだと言う時、君の言葉は真実に合致している。なぜなら古来より今日に至るまで地球人は、純粋に宗教的または教派的な信仰に陥り、預言的な勸告者や占い師として神の真理を告げるよう神から命じられていると感じる者を預言者と記述してきたからだ。こうして、そのような地球人[響]は宗教的、教派的な信者から宗教的権威として認められて扱われ、幾重にも賛美されて崇められている。

だが、「霊の教え」もしくは「予言者の教え」もしくは「真実の教え・霊の教え・生命の教え」をもたらす、教え、そして伝えるという意味では、ひとえに教えのみがあり「予言者」ということではない。

しかし教師が教えをもたらす以外に予言的な表明や実際的な予告をする場合、これらは教えとは直接関係なく、出来事の組み合わせ、確率計算、現実夢および現実的ビジョンに関する論理的思考によっている。だが、これら全ての価値は教えに基づくものではなく、予言し、予告する人物の意識的能力に基づいている。だが、「予言者」の概念の起源は古代ギリシャ語に遡り、「prophetes」が語源で、これは例えば「神託を告げる者」、そしてまた「予見者[Seher]」や「占い師[Wahrsager]」も意味する。「prophetes」の概念は2語から成る合成語で、「pro」は「前もって」を意味し、「pheme」は「発言」または「話すこと」と解釈される。さらにそこから「phanai」という概念が出てくるが、これは話すという程度の意味

であり、そこからまた「prophanai」という概念が派生するが、これは「予告する」または「告知する」と理解される。

この全体が既に非常に早い段階でキリスト教とイスラム教に受け継がれ、全てにおいてこれらの宗教とその教派に属する信者の言葉[言語]全てに言い換えられた。それは今日に至るまで保たれ、あらゆる標準的な言語地域で一般的に通用しているのだ。

「霊の教え」、「予言者の教え」もしくは「真実の教え・霊の教え・生命の教え」およびこの教えをもたらす「教え広める者」の呼び方に関しては、君も自分で言ったように、基本的に「教師」という概念を使用すべきだろう。「告知者」または「ミッションを遂行する者」の概念も使用できよう。しかしまた「予言者」も可能である。

それ[予言]は相応の教師が、まさしく予言をして「現れるべき出来事」などの可能性を明らかにする場合、いったん「設定された原因」がそのまま展開されてより良い方へ変更されず、したがって最終的に予言された結果に至る場合である。

「予言者」である人物が、預言者と呼ばれ、あるいは告知者、勸告者、叫ぶ人、予見者および警告者として登場する場合、その意味においてのみ見られ理解されるべき[前記の予言者]である。

だが、ここから明らかになるのは、人は君を「予言者」と呼ぶということだ。それはまさしく君がさまざまな予言をしてきたし、これからも気が向けばするだろうが、君の人物と活動に対してこの呼び名は絶対に捨て去ることができる。

なぜなら、この概念の全体は、

君が実際にしていること、すなわち「霊の教え」もしくは「真実の教え・霊の教え・生命の教え」を教え広めていることと合致していないからだ。したがって君は正しくは 簡素に「教師」と呼ばれるべきである。そして、この「予言者」という呼び名は、君が幾つかの予言をして来たにも関わらず考慮されるべきである。そして君が「予告者」として、より多くの数の予告をして来たこと、その予告を

してきたことは、時間が経つと共に幾つかの予言どおりに起こったし、これからも起こることであろう。そしてこのことはまた、君が「霊の教え」すなわち、「真実の教え・霊の教え・生命の教え」の教師であり、そしてこの教えを教え広めることを^{いささ}些かも変えるものではない。

それ故、君もまた「教師」と呼ばれるべきであり、それ以外のいかなる名前でも呼ばれるべきでは

ない。

ビリー: それは結構なことだ。それは、また私がいわゆる黒魔術、透視、宗教、教派主義、占い、魔法など、それに類するものとは関係ないということでもある。

ビリー

オーディオCD 瞑想用補完CD (仮題) のご案内



オーディオCD:2枚組
配布価格:未定
配布開始:2016年2月頃より
取扱説明書付き

オーディオCD:2枚組
配布価格:未定
配布開始:2016年2月頃より
取扱説明書付き

新しく平和瞑想とペントラ瞑想の環境オーディオCDを編集中です。2016年2月頃を目標に配布が開始できるように準備を進めています。この環境CDには、「瞑想前の静寂」と「瞑想本体」(センターでFLJが収録した平和瞑想の収録音)、そして「瞑想後の静寂」が、合図音と共に正確な時間でCDに収められており、瞑想を実施する方が、所定の時間に合わせて、このCDの再生をスタートさせるだけで、平和瞑想の規定に合った瞑想時間をその合図音と共に管理できるようになっています。このCDは、FIGUスイスで販売されている「Friedensmeditation (平和瞑想)」を参考に、FIGUスイス

の祈り'の中の一つ新しい「7つ祈り」を使用しました。小冊子に添付した朗読用の「7つの祈り」と対応したものです。また朗読の練習がしやすいように、「ゆっくりと読みあげた」トラックも収録されています。

オーディオディスクの収録内容

Disk 1 「平和瞑想と個人瞑想」

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 導入 (グループで行う場合の合図音と操作者の着席までの時間) | 1'00 |
| 2. 静かな待機 (瞑想前の規定される静かな待機時間) | 5'00 |
| 3. 平和瞑想 (FIGUスイスでの瞑想録音) | 20'00 |
| 4. 静かな余韻 (瞑想後の規定される静かな余韻時間) | 2'00 |
| 5. 開放 (鳥の声によるさわやかな終了) | 12'00 |
| <ボーナストラック> | |
| 6. 静かな待機 (個人瞑想、利用は自由) | 5'00 |
| 7. 個人瞑想 (無音収録、個人瞑想には時間の規定はありません) | 20'00 |
| 8. 静かな余韻 (個人瞑想、利用は自由) | 2'00 |
| 9. 開放 (鳥の声によるさわやかな終了) | 12'00 |

Disk 2 「ペントラ瞑想と7つの祈りの朗読」

- | | |
|--|-------|
| 1. 7つの祈り朗読 (普通) (ドイツ語による普通のスピードでの朗読) | 2'40 |
| 2. 7つの祈り朗読 (遅い) (ドイツ語によるゆっくりとしたスピードでの朗読) | 5'20 |
| 3. 導入 (グループで行う場合の合図音と操作者の着席までの時間) | 0'20 |
| 4. 静かな待機 (瞑想前の規定される静かな待機時間) | 5'00 |
| 5. ペントラ瞑想 (7つの祈り、無音収録) | 20'00 |
| 4. 静かな余韻 (瞑想後の規定される静かな余韻時間) | 2'00 |
| 5. 開放 (鳥の声によるさわやかな終了) | 12'00 |

注) 制作中のため名称や構成(時間)が変更になる場合もあります。

7つの祈りは、ドイツ人の方に朗読をお願いして、レコーディングスタジオで専門的に収録を行ったものです。先日FLJで配布を開始した小冊子: 'ノコデミオンの全7

1. 「宇宙の深遠より - プレアデス/プレヤール人とのコンタクト」 定価 3,000 円 (消費税込み) 重さ 765g
初めての方に最適な入門書、地球人の本当の歴史、UFO 科学の真実、そして私たちの未来は・・・
2. 「わずかばかりの知識と知覚そして智慧」 定価 3,150 円 (消費税込み) 重さ 846g
詩のような美しい真実の言葉が、私たちの間違えた生き方に一筋の光を照らしてくれます。
3. 「瞑想入門」 定価 3,200 円 (消費税込み) 重さ 815g
真実の正しい瞑想を学ばれたい方の必須の入門書、貴方は強制的非強制をご存じですか？
4. 「心」 定価 2,000 円 (消費税込み) 重さ 440g
人間の思考とは、感情とは・・・霊と思考と、感情の仕組が解明される・・・
5. 「アラハト・アテルサータ」 定価 2,800 円 (消費税込み) 重さ 700g
純粋霊の最初の形態であるアラハト・アテルサータから、私たち地球人へのメッセージが・・・
6. 「プレアデス・プレヤール人とのコンタクト記録 (1)」 定価 2,000 円 (消費税込み) 重さ 375g
7. 「プレアデス・プレヤール人とのコンタクト記録 (2)」 定価 2,000 円 (消費税込み) 重さ 440g
8. 「プレアデス・プレヤール人とのコンタクト記録 (3)」 定価 2,000 円 (消費税込み) 重さ 335g
9. 「プレアデス・プレヤール人とのコンタクト記録 (4)」 定価 2,000 円 (消費税込み) 重さ 430g
10. 「プレアデス・プレヤール人とのコンタクト記録 (5)」 定価 2,000 円 (消費税込み) 重さ 395g
※原書 [Plejadishe-Plejarische Kontaktberichte Blok1] の内容を邦題 5 冊に翻訳・分冊されたものです。

書籍のご注文方法をご案内します。

1. 注文は FAX 又は電子メールで受け付けます。(電子メールでのご注文が一番早く対応可能です)
2. ご注文後に在庫の確認をしますので、当方からの連絡後に入金されるようお願いいたします。
3. お届する書籍の梱包には注意を払いますが、お届した書籍に傷や破れなどございましたらご連絡ください。
4. ご注文から書籍の発送までは、約 2 週間ほどのお時間を頂いております。
5. 書籍発送前のキャンセルはお受けできません。

送料：郵便局【ゆうメール】(冊子小包)
150g:180 円 250g:215 円 500g:300 円
1kg:350 円 2kg:460 円 3kg:610 円

- | | |
|--|--|
| 1. 「霊と肉体における生」
定価 500 円 (消費税込み) 重さ 70g | 15. 「エノクの預言」
定価 300 円 (消費税込み) 重さ 55g |
| 2. 「FIGU の原則あるいは人間の原則」
定価 300 円 (消費税込み) 重さ 40g | 16. 「予言者エレミヤとエリヤの予告」
定価 400 円 (消費税込み) 重さ 80g |
| 3. 「プレヤール人が地球人に望むこと」
定価 200 円 (消費税込み) 重さ 30g | 17. 「地球に平和あれ」
定価 300 円 (消費税込み) 重さ 55g |
| 4. 「切なる願い」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 25g | 18. 「ピリーの少年時代の著作」
定価 500 円 (消費税込み) 重さ 95g |
| 5. 「あえて賢くあれ」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 25g | 19. 「生命の哲学」
定価 1,000 円 (消費税込み) 重さ 150g |
| 6. 「昨日、今日、明日の心配に関する考察/死後の生はあるか」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 15g | 20. 「F.I.G.U. 要綱」
定価 無料 (消費税込み) 重さ 30g |
| 7. 「生と死は互いに切離しがたく結びついている」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 25g | 21. 「人口過剰との闘い」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 95g |
| 8. 「男と女に対する言葉」
定価 200 円 (消費税込み) 重さ 35g | 22. 「拷問と死刑・人口過剰」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 70g |
| 9. 「男と女の違い 男と女の結びつき」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 20g | 23. 「人口過剰爆弾」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 45g |
| 10. 「勝者と敗者」
定価 100 円 (消費税込み) 重さ 25g | 24. 「メンタルな流動力はどのように細胞や臓器に浸透するか？
または、なぜ喜びと調和は私たちにとってそれほど重要か？」
定価 200 円 (消費税込み) 重さ 50g |
| 11. 「パートナーシップ (男女間の協力関係)」
定価 200 円 (消費税込み) 重さ 35g | 25. 「生殖・妊娠・出産」
定価 200 円 (消費税込み) 重さ 35g |
| 12. 「瞑想入門の手引き」
定価 300 円 (消費税込み) 重さ 70g | 26. 「新しい暴力的ないじめ/嫌がらせ」
定価 500 円 (消費税込み) 重さ 45g |
| 13. 「仕事やその他の有意義な活動をしないと人間は墮落する」
定価 200 円 (消費税込み) 重さ 28g | 27. 「ノコデミオンの全 7 つの祈りの形」
定価 300 円 (消費税込み) 重さ 50g |
| 14. 「憎しみは人間を非人間にする」
定価 200 円 (消費税込み) 重さ 26g | |



発行・販売元：社) フィグ・ランデスグループ・ヤープン
〒193-0823 東京都八王子市横川町 521 番 4 号
TEL 042-686-1379 FAX 042-686-1378
E-Mail info@jp.figu.org
ゆうちょ口座記号番号：00150-9-275235
口座名義：社) フィグ・L・ヤープン

無断複製・利用を禁止します。著作権は一般社団法人 FIGU-Landesgruppe JAPAN に帰属します。